



性と生活の知恵によるレジリエンスの一考察

～若年性認知症の人を看取った家族へのケア実践から～

講師 青木伸吾

小規模多機能 たがらの家・しゃくじいの庭 運営法人代表
東京大学大学院高齢者在宅長期ケア看護学 客員研究員

日時：2017年9月2日（土）18時～20時（17時50分受付開始）

会場：朝日エル会議室 東京都中央区築地2-12-10 築地MFビル26号館5階

（東京メトロ日比谷線築地駅2番出口 1階にソフトバンクが入っているビルです）

参加費：会員1,000円 非会員2,000円 学生500円（当日受付でお支払いください）

参加申し込み：「一般社団法人性と健康を考える女性専門家の会」事務局まで

お名前、ご所属、会員／非会員 ご連絡先を明記の上、メールでお申込ください。

pwesh@ellesnet.co.jp

認知症の人の介護と看取りにおける性と生と死にゆく過程には、療養生活を支える家族の生活実践の知恵（実践知）が存在する。今回の調査で解決をめざした問いは、認知症発症前から築いた夫婦の生活スタイルが喪失して再興する過程で、性と生活の知恵によってレジリエンス(*)が創出されていたかである。調査は、在宅で若年性認知症の妻を看取った夫へのインタビューをおこなった。結果は、夫が妻の在宅療養生活を支える過程で、性的関わりを超えた「気づかい」や「やり過ぎ」をおこない、妻への介護負担を「なんでもなく」させて看取りをむかえていくことが判明した。こうした言葉の心情には、その状況に働きかけるレジリエンスの作用があると考察した。

*レジリエンスとは「システム、企業、個人が極度の状況変化に直面したとき、基本的な目的と健全性を維持する力」2012 アンドリュー・ゾッリ

【講師プロフィール】

- 大学でマネジメントを学び、ハウスメーカー勤務後に家業畳店を継承（五代目）し、置職人としてさまざまな家庭に出入りをする。個人の生活ニーズ充足に事業を焦点化し練馬区内の福祉事務所と協働して住環境の整備をおこなう。住環境混乱から復興力（レジリエンス感）を実感する。
- 2000年 介護保険制度が始まり住環境改修や福祉用具販売を事業化、住宅改修を支援するNPO法人を設立
- 2007年 小規模多機能型居宅介護「たがらの家」を実家で再建築して開業、6ヶ月で収益が損益分岐に達し10年目をむかえる。運営ポリシーを認知症の人のレジリエンス支援とし、【素人性・専門性・当事者性】をマネジメントする。
- 2015年 小規模多機能と認知症グループホーム、園芸療法の機能をもつ「しゃくじいの庭」を開業。NPO活動でも練馬区の介護保険管理事業の一部門を受託しながら安定収益を維持している。
- 2011年～2015年 東日本大震災支援事業として、NPO法人にて【住民が住民を雇用して住民の福祉をおこなう仕組み】を提案し、岩手県大船渡市で活動する障がい者支援NPO団体のレジリエンスによる支援を受託。障害者就労支援、介護保険デイサービス、共生型事業所の開設までを協働して支援を終了した。
- 2015年 大学院社会福祉学専攻課程に在籍し、認知症ケアと家族支援、在宅看取り、小規模多機能ケアを探究した。
- 2016年～現在 高齢者在宅長期ケア看護学研究室客員研究員として参加している研究では、コンビニエンスストアが地域福祉の一役となって、生活弱者（認知症の人や家族）を支える場面を調査し、社会資源創出となるカードゲームを用いた教育プログラムの開発を探究している。2017年度練馬区より3年間の助成事業に採択された。